

令和元年度 7月「学校評価アンケート」の分析「公表資料」

7月に実施した「学校評価アンケート」へのご協力ありがとうございました。本校が掲げている4つの「めざす生徒像」を実現させるための、具体的な取組についての結果と分析をお知らせいたします。

学校教育目標「豊かな心と向上心にあふれる生徒の育成」の達成に向けて

「めざす生徒像」づくり

【1. 自ら進んで学習する生徒】

・「見通し・ふり返る」で学習への意欲を感じている生徒

【2. 互いの良さを認め高め合う生徒】

・互いの良いところを見つけ伝え合うことのできる生徒

【3. 心と体を鍛える生徒】

・自律清掃で、自分の心を磨いている生徒

【4. ふるさとに誇りを持つ生徒】

・地域に誇りを持つ生徒



【1. 自ら進んで学習する生徒】

(質問5)「授業で学習内容の見通しを持ったり、ふり返ったりすることができる」

「よくあてはまる」「あてはまる」合計94% (生徒)

(質問6)「授業で自ら進んで課題に取り組んでいる」

「よくあてはまる」「あてはまる」合計90% (生徒)

授業での「見通し・ふり返り」については5月の97%に引き続き、高い数値を継続しています。「授業で自ら進んで課題に取り組んでいる」については5月の88%から、わずかですが上昇が見られます。その内訳を見ると「よくあてはまる」と回答している生徒の数値がやや上昇しています。今後も見通し・ふり返りのある授業を継続しながら、生徒一人一人が意欲的に参加し、有意義で深い学びのある授業づくりに取り組んでいきます。

(質問8)「学んだことをふり返ったり(復習)次の授業を見通した勉強(予習)を家でしている」

「よくあてはまる」「あてはまる」合計85% (生徒)

(質問7)「子どもは家庭学習の習慣がついている」

「よくあてはまる」「あてはまる」合計83% (保護者)

家庭学習については、5月の86%に引き続き、高い数値を継続しています。内訳では「よくあてはまる」生徒が32%から36%とわずかですがポイントを伸ばしています。一方で、保護者の「よくあてはまる」は28%となっています。「ガリガリノート」(自主学習ノート)を用いての家庭学習が定着してきたにもかかわらず、学習内容に課題があることが考えられます。生徒自身が自分に必要な学習を知り、主体的に考えて取り組むことができるよう、学習方法を示したり頑張りを認める声かけをしていきます。

【2. 互いの良さを認め高め合う生徒】

(質問11)「友達の良い行いや長所を見つけることができる」

「よくあてはまる」「あてはまる」合計95% (生徒)

(質問12)「友達に対して、思いやりの心で行動している」

「よくあてはまる」「あてはまる」合計94% (生徒), 96% (保護者)

生徒同士が良いところを見つけ発表し合う「とりごえもんの羽」が定着してきており、他の人の良い行いを見つけようとする生徒の意識が高くなっていることがうかがえます。今後も生徒一人一人の良さを認め自尊感情を育むとともに、他者への思いやりが自然と生まれるような場面を設けていく取組をしていきます。

【3. 心と体を鍛える生徒】

(質問15)「自律清掃(無言、見つけ)を通し、自分の心を磨いていると感じる」

「よくあてはまる」41%、「あてはまる」51% 合計92% (生徒)

自律清掃の取組に対する意識の高さがうかがえる数値となっています。しかし、「よくあてはまる」生徒は5月の49%から大きく8%下降しています。今後も、清掃に取り組みながらも静かに自分の心を整える時間となるよう、自律清掃の意義について確認することが大切であると考えます。

【4. ふるさとに誇りを持つ生徒】

(質問16)「地域に愛着や誇りをもっている」

「よくあてはまる」46%、「あてはまる」44% 合計90% (生徒)

(質問13)「子どもは、地域に愛着や誇りを持っている」

「よくあてはまる」「あてはまる」合計88% (保護者)

家庭や地域の大人が地域を大切に思い貢献するが、自然と生徒に伝わっているように感じられます。学校としては、城山旧道整備、花いっぱい運動のように地域の方と直に接する活動が生徒の実感に結びついていると思われまます。今後も地域の方に来ていただいたり、歴史、伝統、地域の産業や文化を振り返ったりするような活動を授業や学校の行事に積極的に取り入れ、鳥越中学校らしさの一つである愛郷心をさらに育んでいきます。